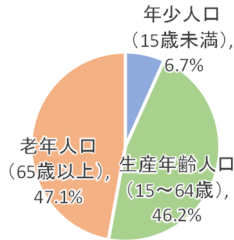


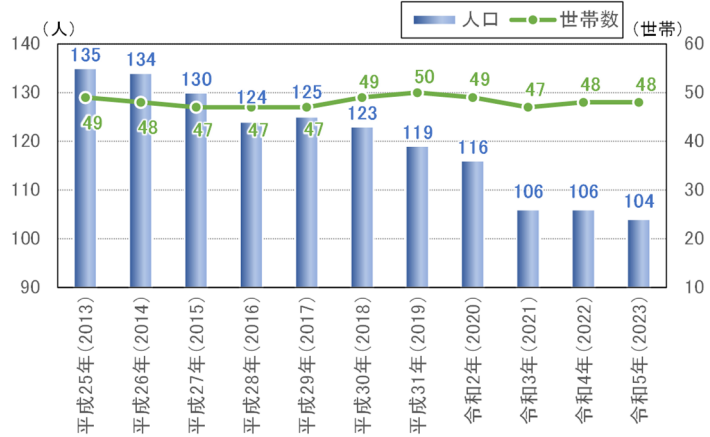
# 三谷 (みたに)

人口・世帯数等 (令和5年4月)	
人口	104人
世帯数	48世帯
高齢化率	47.1%

### 年齢別人口割合



### 人口・世帯数の推移 (過去10年間)



### 区域の概要

**立地** 集落は、三谷川に沿う狭い谷間に家屋が細長く散在する。山を挟んだ東側の大庭田圃に面した万ヶ崎にも集落があり、北東側の岸田川沿い一帯に田畑が広がる。

**地名由来** 泉谷、味原谷、三谷の3つの谷に由来するとされる(「郷土の伝説」(大庭中学校社会科クラブ編))。

**歴史等** 古くは浜坂の満願寺の奥の院(現清泉寺)があったとされている。田井の楞厳寺開山の南溟禅師は、はじめこの里に庵を建てて村童に読み書きを教え、後に清富村観音山中腹の楊林坊に移った。

近世の三谷村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保12年(1727)からは幕府領となった。家数は、宝暦10年(1760)29、嘉永元年(1848)30。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は301石余。耕地の零細化を防ぐことなどを目的に、江戸時代を通じて分家に対する厳しい制約があり、村規則が代々引き継がれていた。

明治22年(1889)大庭村の大字となり、昭和29年(1954)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数30、人口は男88・女85。

### これまで把握している文化財

文化財の件数 29件 (うち指定等文化財 0件)

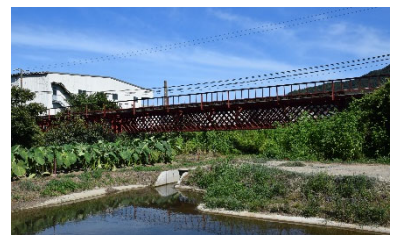
大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	2	0
		石造物	0	0
		工作物・その他の構造物	1	0
	美術工芸品	彫刻	1	0
		絵画	0	0
		工芸品	1	0
		書跡・典籍	0	0
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	2	0
		音楽	0	0
		演劇	0	0
		工芸技術	0	0
		その他の無形文化財	0	0
		信仰の場	3	0
		祭具	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	民具	0	0
		その他の有形の民俗文化財	0	0
		年中行事・民俗芸能	1	0
		民俗技術	0	0
	無形の民俗文化財	食文化	0	0
		民間説話・俗信	0	0
		その他の無形の民俗文化財	0	0
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	4	0
		古墳・その他の墓	10	0
		城館跡・寺社跡	0	0
		街道・古道等	1	0
		戦争遺跡	0	0
	名勝地	その他の遺跡	0	0
		山岳・高原・丘陵	0	0
		海岸・海浜・島嶼	0	0
		河川・滝・溪谷・湖沼	0	0
		公園・庭園	0	0
	動物・植物・地質鉱物	その他の名勝地	1	0
		動物	0	0
		植物	2	0
		地質鉱物	0	0
	文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地	0
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	0	0



木本神社



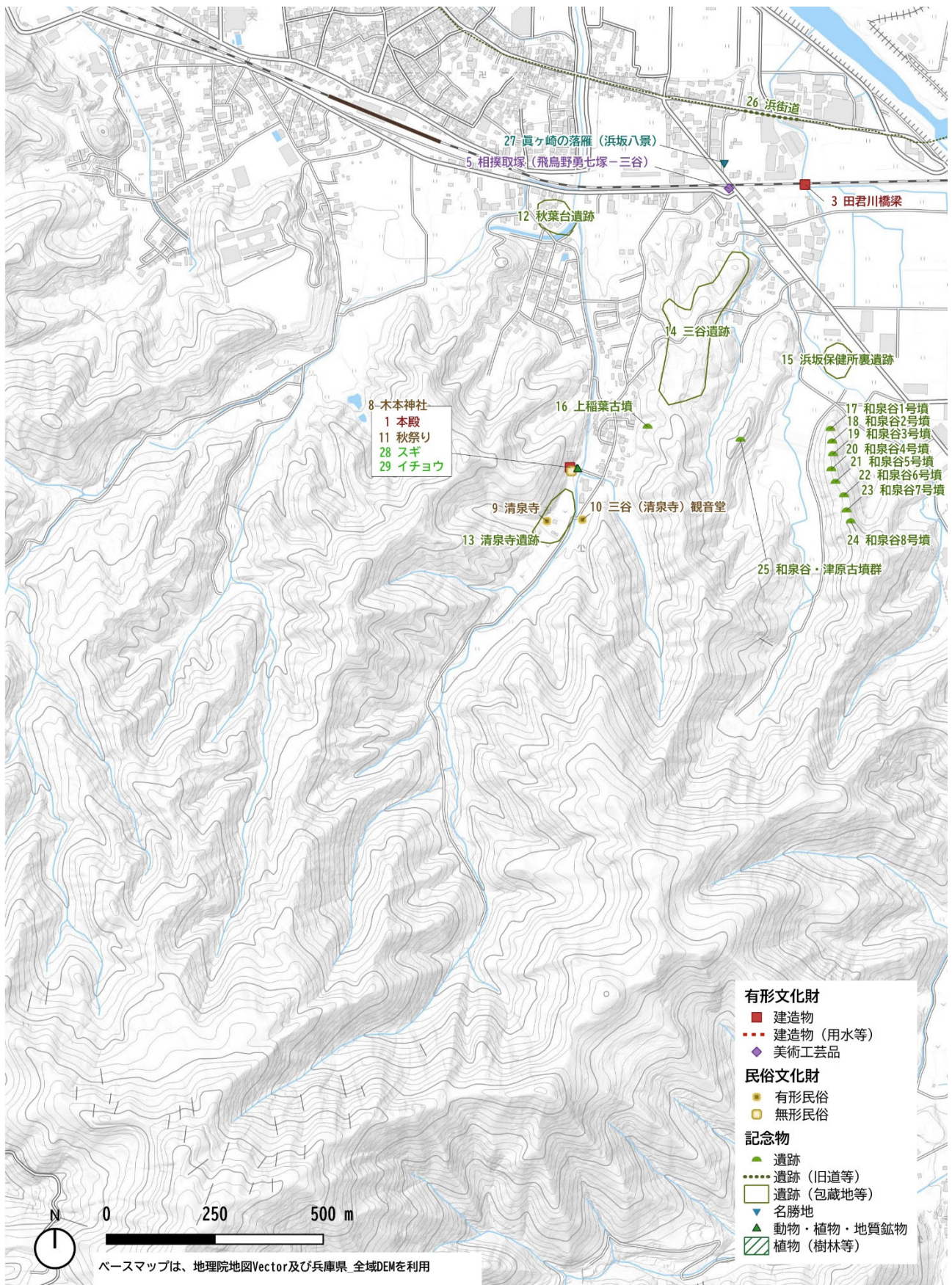
清泉寺



田君川橋梁

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

## 2-04 三谷

### 文化財の一覧

#### ■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	木本神社本殿	欄間には龍、木鼻には獅子、唐破風懸魚（兎毛通）には鳳凰の彫刻が見られる。丹波柏原の彫物師中井権次の作である。
	2	谷田家住宅	明治時代の建築。木造2階建、瓦葺。
工作物・ その他の 構造物	3	田君川橋梁	JR山陰本線の久谷と浜坂の間、田君川に架かる橋梁で、明治45年（1912）に建設された。2連の桁の片側にラチス桁が用いられている。このラチス桁は大正期に増設されたものである。もう一方の桁や煉瓦積の橋台は建設当初のものである。徳佐川橋梁（山口県）、竹野川橋梁（豊岡市）とともに、現在日本に三つしかないラチス桁橋梁の一つである。

#### ■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	4	清泉寺の大日如来像	清泉寺の本尊。江戸時代のものと思われる。
工芸品	5	相撲取塚 （飛鳥野勇七塚）	文政11年（1828）4月19日建立。碑文は「飛鳥野勇七塚」。願主小熊川六三郎・都藤喜十郎・宮清水国三郎・栃谷村弟子中。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	6	三谷部落文書	幕末期の三谷村文書。
	7	清泉寺文書	清泉寺過去帳。文政3年（1825）三谷村規律文書。

#### ■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	8	木本神社	祭神は神速素戔鳴命。創立年月は不明。京都八坂神社の分霊を勧請したと伝える。承応4年（1655）に社殿を再造。明治6年（1873）3月に村社に列せられる。昭和9年（1934）に同村無格社の三柱神社と八柱神社を合祀し、境内社には、八柱神社（稲田女命）、三柱神社（素戔鳴命）がある。
	9	清泉寺	天平10年（738）、行基菩薩が諸国行脚の際、今の浜坂海岸に上陸して大御堂（現在の満願寺（浜坂）・清泉寺の前身）を建てたとされ、清泉寺はその時の奥の院と伝わる。本尊大日如来の他、聖観音菩薩を祀る観音堂を有し、薬師如来、地藏菩薩を祀る。地藏菩薩は、但馬六十六地藏尊霊場の第三番札所ともなっている。寺名の由来は、当寺山麓より、清水が湧出し、その味のよさは、「飲む者をして舌を鼓たしむ」といわれる程であることによると伝える。なお、この井戸は現存し、今もなお冷水が湧出している。
	10	三谷（清泉寺）観音堂	聖観世音菩薩を安置する。但馬六十六地藏尊霊場の第三番札所。

#### ■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	11	木本神社秋祭り	毎年9月15日に木本神社の例祭として行われる。

#### ■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	12	秋葉台遺跡	古墳～奈良時代の散布地。須恵器片数点が散布。全壊。
	13	清泉寺遺跡	古墳～奈良時代の散布地。須恵器片が数点散布。
	14	三谷遺跡	古墳時代の散布地。土器片が散布。
	15	浜坂保健所裏遺跡	古墳時代の散布地。須恵器片が数点散布。

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	16	上稲葉古墳	古墳時代の古墳。開墾時に一部損壊。横穴式石室の一部が散乱。
	17	和泉谷1号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）。
	18	和泉谷2号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）。
	19	和泉谷3号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）。
	20	和泉谷4号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）。
	21	和泉谷5号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）。
	22	和泉谷6号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）。
	23	和泉谷7号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）。
	24	和泉谷8号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）。
	25	和泉谷・津原古墳群	中世の城館跡。城は古墳群を平坦に削平して、曲輪群を構築したもので、一部に堀切・竪堀も見られることから、戦国期の改修がうかがえる。城は浜坂から湯村へ至る道を押さえる城と思われるが、一時的に村人は避難する「村の城」でもあったと考えられる。『但馬国にしかた日記』（弘治3年（1557））には、三谷村に「はし若狭殿」「小谷けん兵衛殿」「三谷殿」などの地侍層が居住しており、これらの地侍層に係する城郭とも考えられる。
街道・古道等	26	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道178号に沿い、道幅は街中で約2間、平地は1間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方斎の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記（第5次）などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。

#### ■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
その他の 名勝地	27	眞ヶ崎の落雁（浜坂八景）	作者の森貞次は七釜屋七代孝一郎の次男、八代孝治の弟で、明治16年（1883）生まれ。近江八景にならい、浜坂八景をあげ、随筆『浜坂八景』を著している。

#### ■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	28	木本神社のスギ	三谷木本神社境内の幹回り2.5mのスギ2本。
	29	木本神社のイチヨウ	木本神社境内のイチヨウ。環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周3.12m、樹高30m。